

続・UCIを支持する人々の言説の誤り(21)

非原理集団UCI(いわゆる「郭グループ」)およびFPA(家庭平和協会)を支持する櫻井正実氏は、二〇二一年六月三日、「**第四アダムに対する理解**」と題する動画を公開しました。彼はその動画で「**二〇二一年は第四アダム時代の第一日目**」との非原理的な、摂理観なるものを語り、動画の終わりのほうでは、「**韓韓子女史がその真の母の位置を離れ、お父様が聖とされた**」状況にあるとしたうえで、「**今現在、この地上で真の父母に立たれている方は、顯進様と全淑様である**」と断言しています。文顯進様夫妻が「**今現在……真の父母に立たれている**」との主張は、真のお父様のみ言や「原理」に照らし合わせると、とてもない非原理的主張にほかなりません。これまで、すでに五回にわたり櫻井正実氏の言説の誤りを指摘しました。今回は、UCI・FPAの人々の言説が誤ったものになる、「根本原因」を取り上げます。

なお、これらの問題点を総合的に理解し把握するためには、「真の父母様宣布文サイト」(<https://trueparents.jp/>)の掲載文や映像をごらんください。



注、真の父母様のみ言や「原理講論」は「青い字」で、UCIおよびFPA側の主張は「茶色の字」で区別しています。

二十一、真のお父様のみ言と異なる主張をする文顯進様は、第四アダムでも、真の父母でもない。その6

(20) 真の父、真の母の「伝統」を相続することが子女の責任

み言①:「**母の伝統を立てる**

ん。

UCI・FPAの人々の言動が誤りとなる根本原因は、真のお父様が「**母は伝統を立てる過程です。終わっていません。母の伝統を立てる前に息子の伝統を立てることができない**」と語っておられたにもかかわらず、そのみ言を無視し、その願いに従っていない点にあります。

(21) 真の父母様は「**最終一体**」を定着完了しておられる

① 真のお父様の「**最終一体**」宣言

櫻井正実氏は二〇二一年六月三日に公開した動画「**第四アダムに対する理解**」の中で、「**父母の世代において第三アダムと完全に一体化しなければならぬ**いそのような韓女史が(真のお父様と)一つになることができなかつた」などと述べています。この発言は、お父様が真のお母様との「**最終一体**」宣言をされた際の「**認識**」と全くかけ離れた

たものになっています。これは、お父様のみ言を改竄して書かれた金鍾奭著「統一教会の分裂」と軌を一にするものです。この点について、教理研究院は「虚偽に満ちた金鍾奭著『統一教会の分裂』——軌を一にする郭錠煥著『事必帰正』(光言社刊)以下、『虚偽に満ちた』で次のように指摘しています。以下、『虚偽に満ちた』から引用します。

「**最終一体**」宣言後は、**天地人真の父母定着完了**、

真のお父様は二〇一〇年六月十九日(天曆五月八日)と同年六月二十六日(天曆五月十五日)、米国・ラスベガスで真のお母様との「**最終一体**」を宣言されました。

真の父母様はこの「**最終一体**」の宣言から十二日後の同年七月八日、韓国・天正宮博物館で「**天地人真の父母定着実体み言宣布大会**」を開催されました。……

さらに真のお父様は世界巡回をされ、天宙大会を各地で開催していかれ、……第五十三回『真の父母の日』(陽曆三月二十二日)に、……「**神様と人類の責任が完結される天の国の憲法が何かといえは、「天地人真の父母定着」です。それさえ成れば、全てが終わるのです。……「天地人真の父母定着、それで全てが終わるのです」**(『トウデイズ・ワールドジャパン』二〇一二年五月号、43ページ)と語っておられました。

その予告どおり、真のお父様は二〇一二年四月十四日、ラスベガスの天和宮で「**天地人真の父母定着実体み言宣布天宙大会を最終完成・完結すること**を、お父様の前に奉獻します」という「特別宣布式」をされました(同、二〇一二年六月号、19ページ)。

そして、その七日後の同年四月二十一日に韓国・清心平和ワールドセンターで、真のお父

真の父母様宣布文サイトはこちらから↓



前に息子の伝統を立てることができない」

真のお父様は、文顯進様に対し次のように語っておられます。「**父の伝統に従って、母の伝統に従って、三番目に息子である。それを知っているの？母は伝統を立てる過程です。終わっていません。母の伝統を立てる前に息子の伝統を立てることができないことを知っているの？**」(マルスム選集323-83)

真のお父様は、息子(子女)は「**父の伝統に従って、母の伝統に従って**」いくべきことを明確にされたうえで、「**母は伝統を立てる過程です。終わっていません。母の伝統を立てる前に息子の伝統を立てることができない**」と指導しておられます。

もし、人間始祖アダムとエバの墮落がなければ、アダム・エバは完成して真の父母となり、人類はその「**人類の真の父母**を

通して」伝えられる神様のみ意に従って生活しながら、真の父母が立てる「**天の伝統**」を学び、相続して後世に伝えていかなければなりません。こうして、人類「**家族世界**」が築かれていくようになっていきました。

その世界は、「**原理講論**」に「**天国においては、神の命令が人類の真の父母を通して、すべての子女たちに伝達されることにより、みな一つの目的に向かって動じ静ずるようになるのである**」(69ページ)とあるように、「**神の命令が人類の真の父母を通して、すべての子女たちに伝達される**」世界であり、人類が「**一つの目的に向かって動じ静ずる**」ようになっていたのです。したがって、真のお父様が明確にしておられるように、子女は「**父の伝統に従って、母の伝統に従って**」いくことで、神様の願われる、真の父母を中心とする「**人類家族世界**」を実現していかねばなりません。

様は「**天地人真の父母様特別集会**」を開催され、次のようにみ言を語っておられます。

「**天地人真の父母定着完了**」が、この本(講演文)の題名です。天地人が真の父母となつて定着する教材・教本だということです。……あなたがたも批評をせず、「この言葉どおり」に一度生きてみたい」と考える人が、福を受けて生きることができるとです。……創造主の資格をもって、最後に万王の王と父母の先祖の中の先祖となりうる勝利の覇権の栄光の宝座に座する人は、億千万代において**た、一つの夫婦**であつて、**二つは**いませせん。夫婦が二つですか、一つですか。万国の王たち、偽者たちがなぜこんなに多いのですか。**万王の王はお一方です**」(「KMS中和新聞」二〇一二年四月十七日号)

「**天地人真の父母定着完了**」の講演文をもって挙行されたこの大会で、真のお父様は「**栄光**

の宝座に座る人は、億千代代に
おいてた、一つの夫婦であつて、
二つはいません。…万王の王
はお一方です」と語られ、天一
国の『万王の王』がお一方であ
ることを明らかにされました。

しかも、『億千代代においてた
だ一つの夫婦』と述べられ、そ
れが文鮮明先生・韓鶴子総裁
ご夫妻であられることを明言さ
れました。このように、お父様
は『**天地人真の父母定着**』を
表され、**天地人真の父母定着**
完了を成し遂げておられます。

以上が、真のお父様が真のお
母様と共に、二〇一〇年から二
〇一二年にかけて『**最終一体**』
の撰理を歩まれながら、全人類
に対して公式的に発表しておら
れる、文鮮明先生ご自身の『**定**
着完了』に関する認識です。

ところが、UCIを支持する
人々が広める金鍾奭著『統一教
会の分裂』は、このようなお父
様ご自身の認識を無視して、お
父様と真のお母様は一体となっ

ておられないという、み言と異
なつた、虚偽のストーリーを
創作しています」(134〜1
37ページ。引用終わり)

以上のように、真のお父様は
二〇一二年の「真の父母の日」
に「神様と人類の責任が完結さ
れる天の国の憲法が何かといえ
ば、『**天地人真の父母定着**』で
す。それさえ成れば、**全てが終**
わる。」と語られました。その予
告どおり同年四月十四日、米
国・ラスベガスの天和宮で「天
地人真の父母定着実体み言宣布
天宙大会を最終完成・完結する」
との特別宣布式を挙行さ
れ、七日後の四月二十一日に韓
国・清心平和ワールドセンター
で「天地人真の父母様特別集会」
を開催。その集会で『**天地人**
真の父母定着完了』が、この本
（講演文）の題名です」と述べ

「**天地人真の父母定着完了**」を
成し遂げておられます。また、
お父様は『**女性尊重時代が来ま**

ならないという使命も含まれて
いました。このように文総裁は、
幾度にもわたって、御自分が不
在となる万一の場合に備えられ
たのです」(「人類の涙をぬぐう
平和の母」220〜221ペー
ジ)
真のお父様は、ご自身の聖和
後、真のお母様が責任を持つこ
とについて明確にしておられま
した。

「**先生が靈界に行くようにな
ればお母様が責任を持つのです**。
その次には息子・娘です。息子
がしなければなりません。息子
がいなければ、娘がしなければ
なりません。後継する者が誰だ
ということとは、すでに伝統的に
全て（準備が）なされています」
(マルスム選集318〜260)

「お母様を中心として皆さん
が一体になっていかなければな
らない時が来りました。もう先生
がいなくても、お母様が代わり
にできる**特権を許諾**したという
のです。お父様がいなるときは、

お母様のことを思わなければな
りません。そのように理解して、
先生の代わりにお母様に侍る心
をもち、折柄もそのようにする
のです。今までは先生を愛して
きましたが、これからはお母様
を愛さなければなりません。こ
れからは**お母様の時代**に入つて
いくことを理解して、特に女性
たちはそのようにしなければな
りません」(「真の父母の絶対価
値と民族的メシヤの道」116
〜117ページ)

「文総裁は衰えるようになり
ましたが、…**第二教主**には、
お母様が堂々としておられるでし
う。分かりますか。夫が成せな
かったことを成し遂げなければ
なりません」(マルスム選集5
40〜73、二〇〇六年九月二十
三日)

「お母様は、お父様よりもつ
とたくさん行きます。年齢が若
いので、私（真のお父様）が死
んでも**教主は問題ありません**。
もはや、**教主は二人が一つに**

す。お母様を中心として、ひつ
くり返るのです。男女が同等で
対等の価値の実権をつくるので
す」(「KMS中和新聞」二〇一
二年四月二十七日号)とも語っ
ておられます。

櫻井正実氏の発言は、真のお
父様ご自身が持つておられる完
全一体の「認識」と全くかけ離
れています。このお父様の「認
識」を受け入れられないことが、
顯進様をはじめとするUCI・
FPAの人々の最大の問題点と
言わざるをえません。

み言②…『**先生が靈界に行く
ようになればお母様が責任を持
つ**』

真のお父様はご自身が「**第一
教主**」、真のお母様は「**第二教
主**」であることを明確にしてお
られました。

「一九九〇年三月二十七日、
統一教会の名節（記念日）の一
つである『**真の父母の日**』を迎
え、アメリカのニューヨークで

なっているということです」(同
541〜146、二〇〇六年九
月二十八日)
顯進様を中心とするUCI・
FPAの人々の根本的な誤りは、
これらの真のお父様のみ言を無
視し、従っていないことです。

(22) UCI側の『**三位一体**』に
対する**不正確な理解**

櫻井正実氏は、動画で『**韓女
史が真の母の位置を離れてし
まっている立場で、この韓女史
がもう一度本然の立場に立ち
返って…顯進様を第四アダ
ムとして認めて…せめて靈界で
悔い改めることができるように
…**』などと述べています。

当連載の「解説」二〇二一年
十二月号で、すでに櫻井正実氏
の「言説の誤り」を指摘しまし
たが、彼は、父母の世代を蕩滅
する中心人物が真のお父様、そ
して子女の世代を蕩滅する中心
人物が顯進様であり、それを協
助するのが真のお母様の使命で

行われた記念礼拝で『**女性全体
解放圏**』が宣布されることで、
私（真のお母様）は統一教会の
第二教主となりました。
その後、一九九四年十一月二
十七日には、ニューヨークのベ
ルメディアで第二教主としての
私の公的使命が改めて公表され、
その意義が強調されました。十
六万人の日本人女性教育と各国
での大会が終わり、私の役割が
さらに重大になっていった頃のこと
です。…

また、一九九一年六月には、
カナダのクレアストンの本館
で…『**顧命性宣誓宣布**』が行
われました。『**顧命**』とは、『**王
の遺言**』を意味する言葉です。

文総裁は御自身が聖和した後も、
私が神様の使命を引き継いで果
たしていけるよう、日本の女性
代表が責任を持つて真の母を支
えていくべきことを、顧命とし
て宣布されたのです。この宣布
には、日本が真の母と一つにな
り、世界を抱いていかなければ

あったとします。

冒頭で述べたように、息子
(子女)は『**父の伝統に従って、
母の伝統に従って**』いくことで

「真の父母の伝統」を相続する
のがその使命であり、子女はそ
のための「孝情」を立てていか
なければなりません。櫻井正実
氏の言説は、それとは真逆であ
り、**主権性転倒の論理**なのです。

UCI・FPA側の人々が
誤った発想をするのは「三位一
体論」に対する捉え方、「原理」
の理解が不正確であるためと言
わざるをえません。この点につ
いて、教理研究院は『**虚偽に満
ちた**』で指摘しています。以下、
『**虚偽に満ちた**』から引用します。

「UCI側の『**三位一体**』に
対する**不正確な理解**

UCI側の問題点は、『**実体的な三位一体**』に関して、誤つた
観点からみ言を解釈し、『**真
の家庭**』を定義するところにあ
ります。彼らは反論の中で、次

のように述べています。

『最近の家庭連合では「三位一体」という言葉を持ち出して真の父母様の価値のみを大きく強調しますが、「三位一体」の目的は、実体の四位基台を完成させることではないですか？そして、家庭連合では真の子女様の価値をどのように考えるのでしょうか？』……

『重生論』と密接に関係する『三位一体論』

真の子女様の価値を『原理講論』の『三位一体論』から見ると、次のようになります。

『神がアダムとエバを創造された目的は、彼らを人類の真の父母に立て……神を中心とした四位基台（注、自同的四位基台）をつくり、三位一体をなさしめるところにあった。もし、彼らが墮落しないで完成し、神を中心として、真の父母としての三位一体をつくり、善の子女を生み殖やしたならば、彼らの子孫も、やはり、神を中心とする善

の夫婦となって、各々、三位一体をなしたはずである。したがって、神の三大祝福完成による地上天国は、そのとき、既に完成されたはずであった』（267ページ）

『原理講論』は、「神がアダムとエバを創造された目的は、彼らを中心とした四位基台をつくり、三位一体をなさしめるところにあった」としています。その場合、アダムとエバが「神を中心として、真の父母としての三位一体」をつくり、そして「善の子女」を生み殖やしたならば、その「子孫も……神を中心とする善の夫婦」となり、「各々三位一体をなしたはず」と述べています。この三位一体論に基づいて真の子女様の価値を原理的に見れば、「神を中心とする善の夫婦」となって、各々三位一体を成す存在と言えます。

このように、「実体的な三位一体」とは「人類の真の父母」を

えません。以上の内容を踏まえて、『原理講論』は、墮落人間に対する『重生』について次のように論じています。「イエスと聖霊とは、神を中心とする霊的な三位一体をつくることによって、霊的の真の父母の使命を果たしただけで終わった。したがって……信徒たちも……霊的子女の立場にとどまっているのである。ゆえに、イエスは自ら神を中心とする実体的な三位一体をつくり、霊肉共に真の父母となることによつて、墮落人間を霊肉共に重生させ、彼らをして原罪を清算させて、神を中心とする実体的な三位一体をつくらせるために再臨される」（268ページ）

真の父母様が、神を中心に『実体的な三位一体』をつくり、『霊肉共に真の父母』となることで、「墮落人間を霊肉共に重生させ……神を中心とする実体的な三位一体をつくらせるために再臨される」というのです。

指しており、それに続く「各々三位一体」は、真の子女様家庭および祝福家庭であることが分かります。ここで『真の父母としての三位一体をつくり、善の子女を生み殖やしたならば……』

とあるように、アダムとエバは三位一体を成した上で、子女を生み殖やさなければなりません。UCI側が述べる『三位一体』の目的は、実体の四位基台を完成させることではないですか？』という内容も、三位一体を成した上で、そこに含まれます。しかし、そのことは、単に子女を生み殖やすというわけではありません。まず、神様を中心とした実体的な三位一体を成した上で、子女を生み殖やさなければなりません。『実体的な三位一体』とは、前項で述べたように、真のアダムと真のエバが神様を中心として、一体を成すことを意味します。それを踏まえた上で『原理講論』は次のように述べています。

このように、「重生論」と『三位一体論』は密接に関係しており、両者は切り離して論じることができない内容であることを知らなければなりません。『原理講論』が論じる『三位一体の目的』は、UCI側の述べる、ただ単に『実体の四位基台を完成させること』ではありません（90～96ページ。引用終わり）

人間始祖アダム・エバは神を中心とする『実体的な三位一体』を成すことで、そこから、神の血統^①が発するようになっていきました。しかし、アダム・エバは墮落し「サタンを中心とする三位一体」となってしまうた

ため、そこからサタンの血統が殖え広がっていったのです。アダム・エバが『実体的な三位一体』を成すことが極めて重要だったのです。『原理講論』に「メシヤを中心として、復帰摂理は完成される」（282ページ）とあるよ

『もし、彼ら（アダムとエバ）が墮落しないで完成し、神を中心として、真の父母としての三位一体をつくり、善の子女を生み殖やしたならば、彼らの子孫も……神を中心とする善の夫婦となって……地上天国は……完成されたはずであった。しかし、アダムとエバが墮落して、サタンを中心として四位基台を造成したので、サタンを中心とする三位一体となってしまうた。ゆえに彼らの子孫も……サタンを中心として三位一体を形成して、墮落した人間社会をつくってしまった』（267ページ）

この部分は極めて重要です。人間始祖アダムとエバが、神様を中心とした三位一体をつくるのか、サタンを中心とした三位一体をつくるのかで、天国になるか、地獄になってしまうのかが決定的な点です。すなわち、アダムとエバが神を中心にして、三位一体をつくれれば、

遺伝の法則によってそこから生うに、真の父母は勝利した人間始祖（アダム・エバ）として復帰摂理を完成させ、新しい、本然の血統^②を発せさせていきます。私たち子女は、その勝利した真の父母様から伝統を相続し、本然の歴史を発現していかなければなりません。

真のお父様は、顕進様に対し「顕進は勉強しなければなりません。郭錠煥が『平和神経』を教えてあげなさい」（マルスム選集609―131）と命じられました。それは顕進様がみ言とことごとく異なった主張をし、行動をしていたからにはなりません。

私たちは、櫻井正実氏をはじめとするUCI・FPA集団の『主権性転倒の論理』である「**現在、この地上で真の父母に立たれている方は顕進様と全淑様である**」との偽りの言説に惑わされないようにしなければなりません。

まれる子孫は、神の血統^③になり、反対にサタンを中心に、三位一体をつくれれば、遺伝の法則によってその子孫は、サタンの血統^④になってしまふのです。天国になるか、地獄になるかの分岐点^⑤が、人間始祖アダムとエバの『三位一体』の問題だったのです。そういう意味で、アダムとエバは特別な使命を持っていたのであり、彼らがどういう立場で『三位一体』をつくるのかで、**み旨が立ちもすれば倒れもする**のです。したがって、UCI側が述べる『最近の家庭連合では「三位一体」という言葉を持ち出して真の父母様の価値のみを大きく強調しますが、「三位一体」の目的は、実体の四位基台を完成させることではないですか？』との主張は、三位一体に対する表層的な理解にすぎず、人間始祖が『**実体的な三位一体**』をつくらせて人類の真の父母になる、**事の重大性**が認識できていないものと言わざるを